

## 年度初めのご挨拶 ～世界にはばたく子どもたちを育てたい～

チューリッヒ日本人学校 校長 鈴木 史良



今年で創立30年目を迎えるチューリッヒ日本人学校は、チューリッヒ市から20kmほど離れた歴史と緑と湖の街、ウスター市にあります。学校の裏手にある丘の上の古城や教会の尖塔を間近に望む本校は、ウスター駅にもほど近く、緑に囲まれたたいへん閑静な環境にあります。

本校は1975年に創立された日本語学校を母体とし、1988年4月に全日制日本人学校として開校いたしました。法人チューリッヒ日本人学校としてチューリッヒ州に認可された私立外国人学校で、土曜日には日本語補習校も開設しています。今年度は11月に創立30周年記念式典を挙げる予定で準備を進めています。

4月現在の児童生徒数は、小学部11名、中学部5名、合わせて16名という小規模な学校ですが、子どもたちは一人ひとり個性を発揮しながら、のびのびと元気いっぱいに学んでいます。

本校の教育を含め、海外子女教育は我が国の主権の及ばない外国で展開されています。本校が海外に居住する日本人子女に対し、国内同様の教育の機会均等、義務教育無償の精神に沿って、日本国民にふさわしい教育を行う使命を帯びていることは言うまでもありません。さらに海外に在住していることを大きなチャンスと捉え、国際性を培い、世界に貢献できる日本人を育てる場として大きな意義をもつと考えております。

私には、大切にしている言葉があります。かつて日本人学校で学んでいた生徒が私に向かって話してくれた次の言葉です。

私たちがそれを学ばなければ、地球はますます不愉快な場所になっていく。だから将来を担う私たちをしっかりと教育し、世界に羽ばたけるようにしてください。

21世紀に入って十数年経過した今、私たちの生活を巡る状況は以前にも増して厳しくなっています。国際社会が混乱し、政治不安や経済の混迷、紛争やテロの勃発、難民問題、地球の温暖化やエネルギー問題等、一朝一夕には解決できない困難な問題が世界じゅうに溢れています。ここヨーロッパも例外ではありません。中学生の言葉は地球の現実を自分なりに捉えており、今の地球を“不愉快な場所”と断じた鋭い感性、洞察力に感銘しました。少しでも暮らしやすい地球にするため、地球レベルで自分たちの将来を見据え、困難さに立ち向かおうとする姿勢にたくましさをも感じました。異文化に触れながら海外で暮らす子どもだからこそ磨けるグローバルな思考、感性ではないかと思います。

将来を担う日本の若者をしっかりと教育し、世界に羽ばたくための確かな学力、生きる力をつけていくのは私たち教師の仕事です。派遣教員として、子どもたちの期待に応えるべき学校づくりへの決意を与えてくれた言葉を胸に、今年度の教育に励んでいきたいと思えます。

世界の多くの日本人学校は、関係者や保護者の子どもへの切なる思いで設立されたものでしょう。日本人会、保護者、教職員が心をひとつにし、さまざまな困難を乗り越えて必死の思いで教育活動を営んでこそ、日本人学校は成り立っていくものです。子どもたちはもちろん、地域からも保護者からも信頼され、愛され続ける日本人学校でありますよう、教職員一同全力を尽くしていく所存です。



チューリッヒ日本人学校校舎正面



緑のグラウンドと後方にそびえるウスター城